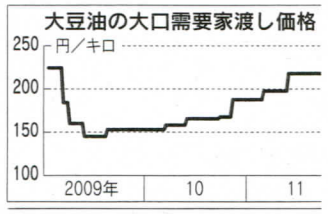
食用油2年

加工用10～12月 2



食用油などの原料高騰が一服し加工食品の値上げ攻勢も沈静化しそうだ（都内のスーパー）

ケースや、ほぼ横ばいで決着した需要家もいる」と説明している。

シカゴ市場の大豆先物価格は9月に1ブッシェル14ドルを突破する水準まで高騰。食用油など中小案件で需要が出ている」（新日鉄）。今秋から都心部の再開発や大型物流倉庫の着工も始まった。

第3次補正予算の成立もあり、今後は復興工事の本格化も予想されるが、メーカーや流通業者の中には慎重な見方も多い。在庫率は適正水準を割り込んでいるが、新日鉄は「市場での H形鋼の逼迫感は少ない」としている。同社は当面、減産と受注制限を継続する方針だ。

H形鋼、在庫調整進む

11月末3.7%減 10ヵ月ぶり低水準

代表的な建設用鋼材であるH形鋼の在庫調整が進展した。新日本製鉄の鋼材を扱う流通業者団体「ときわ会」が13日までまとめた11月末在庫は17万2500トン。1月末（16万3000トン）以来10カ月ぶりの低水準となった。前月末在庫量を月間出庫量で割った11月の在庫率は1・77カ月分。適正とされる2カ月分を割り込み、昨年12月（1・54カ月分）以来の低い水準となった。

ときわ会の11月のH形鋼出庫量は前月比4・4%（4100トン）増の9万7300トンと3カ月連続で9万トンを上回った。

鉄骨など構造材として使うH形鋼は鋼板など他の鋼材に比べ建設需要の動向をいち早く反映する。日本鉄鋼連盟がまとめた10月のH形鋼受注量は前年同月比9・8%増の25万トン。「耐震補強用に加え、店舗、福祉施設連を含め建設需要の回復を受け、H形鋼の調達が徐々に増えてきた。

液晶パネル下げ止まり

11月大口価格 需給が改善

テレビ用液晶パネルの大口需要家向け価格が下げ止まった。深刻な需要不振から8月以降値下がりが続いたが、テレビメーカーが欧米の年末商戦向けに調達量を増やして需給が一時的に改善した。ただ、世界景気の低迷でテレビの販売価格は大幅に下落しており、出荷がパネル価格の反転につながるかは不透明だ。

11月出荷分の大口向け価格はテレビに使う蛍光管タイプの32型が125ドル前後、42型が203ドル前後。いずれも前月比横ばいで決着した。

パネル価格は「工場の稼働コストに近い水準」（パネル大手）で、各社は稼働率を落としていた。一部のテレビメーカーが増産し、パネルの出荷量も回復した。

サムスン電子は8日に11月の液晶テレビの世界出荷台数が過去最大になったと発表。だが、米国市場では32型で190ドル（約1万5千円）、日本製60型も900ドル（約7万円）など大幅に値引きされている。「テレビの販売が伸びても収益改善は9月（確報値）から横ばいの1・12だった。昨秋以来の低水準だが、2カ月ぶりに下げ止まった。

DGレシオ 1.12

10月は横ばい

電子部品、受注は悪化

米調査会社のIHSアイサプライがまとめた10月の電子部品DGレシオ（受注額を販売額で割り加重平均した値、速報値）

タラバガニ

生鮮クリック

輸入価格2～4割高

米の漁獲枠減響く

買い物客らでにぎわうアメ横商店街でもカニの値段は上がった

ラバガニが高い。資源減少を背景に主産地の米国アラスカ州で漁獲枠が半減、輸入価格は約4割上昇した。米国産の供給減を受けてロ上野のアメ横商店街でも例年より高く、師走の家計を直撃しそうだ。

米国産タラバの輸入価格（船賃込み）は現在1キロ3500円。前年同期比で4割上がった。主産地のアラスカ州で10月中旬から1カ月ほどの漁期について漁獲枠が約3500トンと前シーズンから減退も予想できる。例年、年明けには鉄鉱石需要の伸びにもかかわらず、BDIの上昇は期待できない。理由は新造船の急増による供給過剰だ。

TDSによると、ケープ型は2010年末に116隻で、年内には約100隻増える。12年もさらに100隻の増加が予想される。新興国の成長を見込んでリーマン・ショック前に注文した船が相次いで完成しているためだ。一方で需要に相当する海上輸送量の増加分は12年で50隻分程度。「差し引きして約50隻分は供給が需要を上回る」（TDS）

ただ堅調な鉄鉱石需要の減退も予想できる。例年、中国では冬前の駆け込み需要の反動で調達が鈍る。供給元である南半球のオーストラリアやブラジルでは「年初は台風など天候不順で出荷が停滞するケースが多い」（海運ブローカー）。増え続ける船の供給が需要を上回る構図は変わらない。例年、1月下旬の春節（旧正月）に中国の経済活動が停滞するのを考慮すれば、BDIは年初から再び下落。中国の金融引き締めで1500を割った今年4月の反落が再現されるかもしれない。新造船の供給圧力で上昇は限定的だ。

（林哲矢）

市況フロントライン

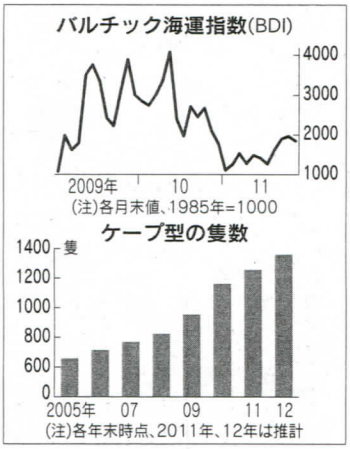
資源を運ぶばら積み船の市況が回復傾向にある。国際指標のバルチック海運指数（BDI、1985年＝1000）は現在、1930と年初に比べ1割上昇した。中国が鉄鉱石の調達を増やしたのが背景だ。だが、2012年は新造船の就航が相次ぎ、船舶需給の緩和で指数が再び下落する可能性がある。来年1～3月期のBDIは1500を割り込むと予想する。

BDIは鉄鉱石を運ぶケープ型（積載重量17万トン級）や石炭を運ぶパナマックス型（同7万トン級）など、ばら積み船の総合的な市況指数。ロンドンの海運取引所が海運ブローカーから得た用船料（船の賃料）の情報をもとに算出している。

08年秋のリーマン・ショック前にはBDIは過去最高の1万超となったが、09年、10年の平均は2500強に落ちついた。今年は年初から下落し、2月には1000台を記録。その後、回復傾向が鮮明になった。

BDIに大きな影響を与えるのが大型船のケープ型だ。ケープ型は主に鉄鉱石を運ぶ。世界の海上物流の3割を占め、品目別のシェアが最も高い。鉄鉱石の物流では6割を中国が占める。中国は昨年の粗鋼生産通し。「来年はさらに500トンほど増え、需要は底堅い」（宝納専務）との見方が有力だ。

バルチック海運指数



新造船急増で1500割れ視野

入量は6420万トンと前年同月に比べ12%増えた。

中国では冬場の凍結で国内の鉄鉱石生産が落ち込むため「冬前に輸入を増やす傾向が強い。足元の荷動きも堅調」（日本郵船の宝納英紀専務）という。海運調査会社トランプデータサービス（TDS、東京・千代田）によると、今年の中国の鉄鉱石輸入量は7億トン弱

アジア発米国向け11月減

■コンテナ輸送　米国系調査会社ゼポがまとめたアジア（10カ国・地域対象）発米国向けの海上コンテナ輸送によると、11月の輸送量は110万9134TEU（20フィートコンテナ換算）と前年同月に比べ1・9%減った。減少は6カ月連続。米景気の減速でクリスマス商戦向けの荷動きが伸び悩んだ。

国別の輸出量は全体の6割を占める中国が2・8%減の65万9404TEU。日本発も4・1%減の5万5011TEUと自動車部品などが伸び悩んだ。

11月は0.7%上昇

■派遣時給　エン・ジャパンがまとめた11月の派遣社員の募集時平均時給は、前年同月比0・7%高い1559円だった。11カ月連続で前年実績を上回った。スマートフォン（高機能携帯電話）の販売員やユーザーサポートの募集が活発で高めの時給を提示する例が多かった。

主力の事務系は0・2%高の1488円。3カ月連続で前年を上回ったが、上昇率は縮小した。

台風被害影響で需要増

■合成樹脂製波板　日本プラスチック板協会（東京・港）がまとめた10月の硬質塩化ビニール波板の出荷量は、859トンで前年同月比31%増加した。ポリカーボネート波板も同14・3%増えた。いずれも出荷量が2カ月連続で前年同月を3割強上回った。9月の台風被害の影響で建設需要が伸びた。

10月は1.0%減少

■倉庫入庫量　国土交通省がまとめた倉庫統計によると、10月の営業倉庫の入庫量は226万1000トンと前年同月に比べ0・1%減った。減少は2カ月連続。「合成樹脂」の12・9%減が響いた。月末の保管残高も2・2%減の446万2400トンで減少は10カ月連続。

員に登録している。それ以外の企業は会員に売買を依頼し取引する。

センターは大手コメ卸が中心になって設立し、2011年産米で2万トンの取引を目指した。

ただ、東日本大震災の影響で加工用米の作付けが大幅に減るなどしたため、実績は262トンにとどまった。

る加工用米を売買する目的で今年2月に設立された加工用米取引センター（東京・中央）が、主食用米などコメ全般に取扱品目を広げ、13日から取引を開始した。低迷する取引の打開策とするほか、コメの現物の価格指標に育てるのが狙い。

主食用米のほか、米粉用米と飼料用米、くず米

価格の押し下げ圧力は続く

（韓国調査会社ディスプレイバンクの金桂煥日本事務所代表）との見方は多い。

価格は急騰した。米国産の供給減でロシア産の輸入価格も1キロ2200円前後で前年同期比2割強高い。

年の瀬で混雑するアメ横商店街では、カニが年末商戦の目玉として店頭に並ぶ。価格は割上がった。主産地のアラスカ州で10月中旬から1カ月ほどの漁期について漁獲枠が約3500トンと前シーズンから減退も予想できる。例年、

商店街の店主は「威勢の良いたたき売りはできない」と嘆いていた。